



ミュンヘン便り ～コロナは一段落したものの～

今年は4月末まで毎朝1、2度の低温で、4月だというのに毎朝ダウンジャケットを着て通勤でした。5月になってようやく暖かくなり、やっと春らしく・・・と思ったら、いきなり30度に到達し、一気に夏になりました。

イングリッシュガーデン（市民の森のようなものと思ってください）の人口がこの時期は一気に増えます。人ではなく鳥人口（鳥口？）が増えるのです。そう、子育ての季節なのです。4月末から5月上旬は、雛を連れたグースの家族がイングリッシュガーデンを闊歩し、ハリウッドスターのごとくみんなのカメラが向けられます。生まれて間もない雛でもすいすいと泳ぐのには感心します。雛にはまだ翼がないのが、写真でお分かりいただけるでしょうか？写真の雛はすでにかなりふさふさしていますが、もっと小さいときには体毛が短いので、翼の元となる骨が良く見えます。鶏の手羽を連想させる三角形の骨です。うーむ、すでに翼を動かす骨があるのだ・・・と翼を持ち得ない動物の視点から羨ましい思いで眺めます。

気温も上がり、コロナも一段落したので、コロナの間なかなか会えなかった友人たちとお昼ご飯ついでに近況交換です。

筆者：「久しぶり～」

弁理士A：「ほんと、久しぶり、2年は会っ

てないよね？髪、伸びたねえ」

筆者：「ちょっとやせたんじゃない？」

弁理士A：「食生活を見直してね、毎朝牛乳一リットル飲むのをやめたりね・・・」

ほぼ2年ぶりに会うと、お互いに変化していますね。

筆者：「調子はどう？」

弁理士A：「うん、一時仕事が少し少なかったけど、戻ってきたね」

筆者：「することがないよりいいよね？」

弁理士A：「そう、やることがいっぱいあるのはいいんだけど・・・」

筆者：「だけど？」

弁理士A：「うちの弁理士のMr.X、奥さんがウクライナの人で、ウクライナの支援のための活動で日々忙しくて、案件を処理する時間が全然なくて・・・」

筆者の旧同僚のウクライナ人は、週に2回、ボランティアで通訳をしています。ウクライナから避難してきている人すべてが英語やドイツ語を話せるわけではないのです。彼女の息子さんとパートナーは、ウクライナの国境まで物資を運ぶ支援活動をしています。他にも社内で募金を募ってウクライナの支援に寄付したり、物資をウクライナの国境まで運ぶ支援活動を補助したり、と比較的身近に支援活動の動きを感じます。



ウクライナのことを案じつつも、休暇を愛するドイツ人はバカンスの計画を立てることを忘れません。しかもようやくコロナが一段落し、今年こそはバカンスに行ける！

筆者：「今年はどこに行くか決めた？」

弁理士B：「うん、本当はサンクトペテルブルクに行こうと思っていたんだけど・・・」

当然キャンセルです。計画、練り直し。

別の同業者の友人：「僕はチュニジアに行くことにしたよ！」

チュニジア？ふーん？

友人：「海沿いの高級リゾートの超高級ホテルが家族3人一泊たったの100ユーロ！3人で100ユーロだよ！でも飛行機が高いんだよ。スーツケース各一個につき超過料金を取るなんて信じられる？」

スーツケース各一個につき超過料金とは、なかなか渋ちんですね。昨今のエネルギー資源高騰のせいかな？



コロナのせいで2年続けて開催できなかったオクトーバーフェスト、今年は3年ぶりに開催されることになりましたが、ウクライナのことを気にしつつの開催決定でした。楽しいことをしたり計画したりする際に、なんだか罪悪感のようなものがつきまといまいます。一日も早く事態が収束することを切に願います。

筆者紹介



稲積 朋子(いなづみ ともこ)

1994年弁理士試験合格。2012年ヨーロッパ弁理士試験合格。現在、GIP Europe Patentanwaltskanzlei所属。

1997年、新樹グローバル・アイビー特許業務法人入所し、主に国内外の出願及び権利化業務を担当。

2007年11月より、ミュンヘンの現地提携事務所に駐在。2009年1月、GIP Europe設立。日本企業・ヨーロッパ企業からの特許出願業務・中間処理業務・異議申立・鑑定・特許無効化の手続・侵害品ウォッチング・契約書作成・係争案件などを扱う。

趣味は、山登り、ぼーっとすること、寝ること、健康づくりに励むこと。